

グローバル文化学環「地域開発論」公開講演会

東日本大震災からの7年半： 陸前高田からの証言



講師 佐藤 一男氏

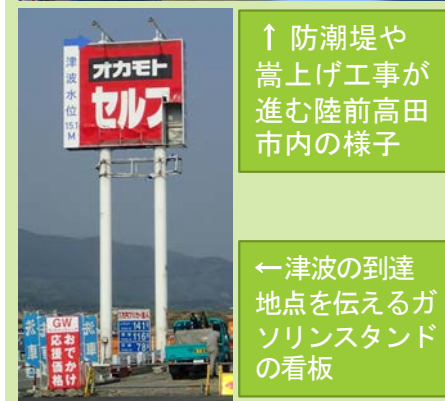
(防災士、元米崎小学校仮設住宅自治会長)

東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市。震災から7年半経ち、ようやく高台の住宅地への移転や公営集合住宅への入居が進んでいます。しかし嵩上げで作られる中心市街地はまだ形成途上で、更地も多く残され、移転先でのコミュニティ形成の問題も抱えています。陸前高田の今後の復興のあり方とその課題について、地元の若手リーダーの一人、佐藤一男さんが、自らの思いを語ります。

講師略歴：1965年生まれ。陸前高田に生まれ育つ。山形大学を経て、故郷に戻り、カキ養殖漁業を営む。東日本大震災後は、避難所の運営、米崎小学校仮設住宅自治会長として尽力。SNSでの発信も熱心に行い、ツイッターのフォロワーも多数。現在は、漁業を離れ、防災士として全国を行脚する毎日。

日時：11月22日（木）15：00～16：30

場所：共通講義棟 3号館 104



↑ 防潮堤や嵩上げ工事が進む陸前高田市内の様子

← 津波の到達地点を伝えるガソリンスタンドの看板

問合せ先：文教育学部グローバル文化学環
global@cc.ocha.ac.jp tel 03-5978-5193

※学内参加自由、学外の方は左のグロ文メールアドレスへ事前に申込み願います。申込QRコード→

